

60 代女性

●主訴

めまい

来院 2 ヶ月ほど前にグルグル回転するようなめまいが出た。最初はすぐに治まったが約 1 週間後に再びめまいが起り大学病院を受診した。メニエール病だろうということでめまい治療薬と漢方薬を処方された。服薬を開始したがめまいの頻度が増え、ここ 2 週間ほどは 3 日に 1 回はめまいが起こる。

既往歴；4 年前 子宮癌手術 経過観察

4 ヶ月前 緑内障 点眼薬治療中

●症状所見

(来院 某年 4 月) 今年の初めから急に眼圧が上がり緑内障の診断を受けた。現在は点眼薬にて治療中。2 月に入って風邪をひき体調を崩してからめまいが始まった。一旦は治まったものの再びめまいがおこり大学病院を受診した。メニエール病だろうとのことでめまい治療薬と漢方薬(五苓散)を処方されて飲み始めたが、ますますめまいの頻度が増えているため鍼灸治療を求めて来院した。めまいが始まると下痢をし、ひどいときは嘔吐と耳の閉塞感を伴う。まためまいが始まる前は耳鳴りが大きくなり頸から肩にかけての凝りがひどくなる。基本的に暑がりやで冷たい物や甘い物を好んで口にする。慢性的に腰痛があり頻尿。低音の耳鳴りが常にある。

●治療の内容と経過

1 診；手足と背部のツボに接触鍼(皮膚上に鍼を貼り付ける方法)と、耳から刺絡(滞った瘀血を少量とる方法)を行った。また、背部のツボに施灸した。

2 診；2 日後に来院。治療翌日はとても爽快で元気に 1 日仕事が出来た。今朝からまた頸肩の凝りがひどくなり耳鳴りが強くなってきた。職場でめまいが始まりお腹も下した。少し休息をとりめまいは軽減したが、来院時はまだふらつき感が残っている。

1 診同様、手足と背部のツボに接触鍼を行う。また、脚と背部のツボに施灸し、脚のツボに王不留行子を貼ったところ頸肩の凝りがかなり楽になった。

ご自宅でのケアとして脚のツボに毎日施灸することをお勧めし、また現在の体調に合いそうな漢方薬(八味丸)をご紹介した。

3 診；4 日後に来院。2 日前に朝出勤してからめまい感が始まったが今までで最も軽いもの

で少し休憩すると治まった。自宅施灸と紹介した漢方薬を購入し飲み始め、病院で出された薬はひとまず止めている。体調が安定してきた気がするとのことだった。

治療は前回と同様に接触鍼と施灸し、耳のツボに王不留行子を貼った。

4 診 ; 1 週間後に来院。この 1 週間はめまいが起こらなかった。耳鳴りはまだ続いている。前日は緑内障の定期受診で、眼圧の変化はなかったが視力が回復していたとのこと。

治療内容は前回同様。

5 診 ; 1 週間後に来院。週半ばに仕事が忙しい日があり、耳鳴りが強くなってめまい感が少し出たが、ひどくならず治まった。その他の日は耳鳴りが気にならなくなってきた。

治療内容は前回同様。

●まとめ

初回来院時にお話を伺うと、めまいが始まる少しより職場の人員が減り業務量が増え、ストレスも多く慢性的に疲れている様子が覗えました。また過去に大病を経験し体力的にかなり落ちていた様子が覗えました。問診所見での腰痛や頻尿、低音の耳鳴りや普段の姿勢の様子などから腎虚を疑いました。めまいが起こる前日は仕事が忙しかったとのことであり、自覚として暑がりであることから、肝鬱気滞で部分的に熱がこもった状態も考えられます。そこで全身の気の巡りを整えることと腎陽を補うことに主眼をおいて治療を進めました。また自宅での施灸と漢方薬(八味丸)をお勧めしたところ、気の巡りが整い、ストレスによる気の乱れの影響を受けにくくなり多少の忙しさでもひどいめまいが起こりにくくなってきたと思われます。そして、全身の循環が改善されてきた結果、視力の回復にもつながったものと考えられます。

今回はご自身の、病院で処方された薬を飲み始めてから症状が強くなった、という自覚により、ご自身の判断で服薬を全て止めて、漢方薬のみにされました。薬を自己判断で止めてしまう事は、場合によりリスクが伴うことであり必ずしも良いとはいえませんが、結果的に症状が改善されたことに複雑な思いがあります。

今後は耳鳴りの低減と、さらに体調を安定させる事を目的に、治療間隔も延ばしながらを継続していく予定です。